イオン環境財団

2025.2.18 TUE

第2回 イオンSATOYAMAフォーラム

みんなで考えつくる　ー 新しいSATOYAMA(里山) ー

綾町イオンの森　会場:国連大学 3階 ウ・タント国際会議場　オンライン:Zoomウェビナー

プログラム

10:00－10:10 開　会

主催者挨拶

山本　百合子　(公財)イオン環境財団 専務理事

来賓挨拶

鈴木　渉　環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性戦略推進室長

山口　しのぶ　国連大学サステイナビリティ高等研究所 所長　※ビデオメッセージ

10:10－11:30 第1部

イオン環境財団のSATOYAMAづくり 宮崎県綾町の事例発表

■ 講演　河野 耕三　綾町 綾BR推進支援員 / 横浜国立大学 非常勤講師

■ パネルディスカッション

11:30－12:20 休憩

12:20－13:50 第2部

■ SATOYAMAに関わる研究や実践内容の発表
京都大学フィールド科学教育研究センター

■ 新しいSATOYAMAづくりに関して参加大学からの取り組み発表
国連大学、千葉大学、東京大学、東北大学、早稲田大学

13:50－14:00 休憩

14:00－15:00 第3部

SATOYAMAの未来に関する意見交換・パネルディスカッション

イオン環境財団は、1990年に日本で初めて、地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として設立し、アジアを中心とする世界各地で環境保全活動を展開してきました。2020年より各大学と連携し、SATOYAMA(里山)の再生や保全・利活用に取り組んでいます。

この度、未来に向けた「みんなで考えつくる　ー新しいSATOYAMA(里山)ー」をテーマに、第2回イオンSATOYAMAフォーラムを開催します。宮崎県綾町では、2013年から自然と共生をめざす森づくりを進めています。また、連携している各大学・自治体など多様なステークホルダーが、それぞれのアプローチで捉えたSATOYAMAの課題から意見交換行います。

主催：公益財団法人 イオン環境財団
後援：環境省、国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)

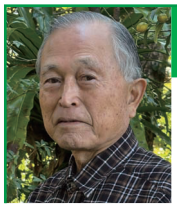
終了後のアンケートはこちらから

第2回 イオンSATOYAMAフォーラム

第一部 イオン環境財団のSATOYAMAづくり 宮崎県綾町の事例発表

10:10-11:30

講演者



河野 耕三　綾町 綾BR推進支援員 / 横浜国立大学 非常勤講師

横浜国立大学教育学部卒業、宮崎県立高等学校生物教諭、宮崎大学客員教授、南九州大学非常勤講師、宮崎県立看護大学特別講師、綾町照葉樹林文化推進専門監を経て現在に至る。綾町の照葉樹林の保護・復元、綾BRの申請や報告作成等に関わる。専門は植物社会学・植物生態学。

パネリスト

倉前 省吾　綾町役場 ユネスコエコパーク推進室 室長

綾町役場ユネスコエコパーク推進室に所属して3年目を迎えた。推進室では、綾町の豊かな自然と文化を守り、人と自然との共生を目指し、様々な事業に取り組んでいる。今回は、綾町イオンの森での取り組みをはじめ、綾町の自然の魅力について紹介する。

光田 靖　宮崎大学農学部 教授

福岡県出身。九州大学大学院生物資源環境科学研究科博士後期課程林業学専攻修了。博士（農学）。森林総合研究所を経て、2012年に宮崎大学農学部に着任。専門は森林経理学、景観生態学。2016年から綾町で日向夏を訪れるニホンミツバチの数と周囲の土地利用との関係について研究している。

児玉 隆一　綾町果樹振興協議会 会長 / 割付やっど一隊 代表

綾町イオンの森の麓の集落 割付地区で、家族3人で約3ヘクタールの果樹園を管理し、日向夏みかんやハウス金柑を中心とした柑橘類を栽培。ここ数年、気候変動や温暖化が、みかん栽培にも大きく影響してきていることを実感。趣味は山登りやニホンミツバチの飼育。割付やっど一隊として、綾町イオンの森遊歩道整備や草刈りなどを年に数回実施。

鮫島 采希　早稲田大学 文化構想学部

地域をフィールドに、人と人、人と自然の「繋がり」について研究・実践している。農業サークルの一員として食を通じた地域活性化に取り組み、昨年「早稲田ローカルフェスタ」を開催。綾町視察に参加し、森と人の関係性に関心を持つ。

モデレーター

西原 謙策　（公財）イオン環境財団 事務局次長

第二部 SATOYAMAに関わる研究や実践内容の発表

【京都大学フィールド科学教育研究センター】

12:20-13:10

① シチズンサイエンスにより里山の土壌を知る活動

横部 智浩　京都大学フィールド科学教育研究センター 特定研究員

奈良県出身。京都大学大学院博士後期課程修了、博士（農学）。専門は生態系生態学、森林土壌の微生物と炭素・窒素動態の関連。2024年7月より「里山の土壌を知るプロジェクト 2024 ～市民参加型の全国里山土壌調査～」の主任を務めている。

神津 州佑　京都大学大学院 農学研究科

長崎県出身の修士2回生。修士論文のテーマは「広葉樹二次林伐採管理が土壌真菌群集と土壌養分環境に与える影響について-全国里山土壌調査を通して-」。樹木が好きで、樹木と関連付けた研究を進めている。

足立 浩汰朗

京都大学大学院 農学研究科

2023年から24年にわたって、モデル里山である京都大学上賀茂試験地で土壌微生物や土壌養分に関する研究を行っていた。発表では、里山の土壌を知るプロジェクト 2024で自身が担当した役割と関わってきた感想、社会に出てから今後どのように里山に関わっていくのかについて述べる。

② 新しい里山里海の共創～舞鶴市の河川における取り組み～

八柳 哲

京都大学フィールド科学教育研究センター 特任助教

2024年3月に北海道大学農学院にて博士（農学）を取得後、同年4月より京都大学舞鶴水産実験所にて現職。水を汲んで生物を検出する「環境DNA技術」を用いて魚類の生態・多様性に関する研究を行っている。本フォーラムでは舞鶴市を流れる伊佐津川で行っている活動について発表し、人と水辺の関わり方を考える機会としたい。

③ 社会調査による地域の里山活動団体の研究

包 薩日娜

国立研究開発法人 国立環境研究所 特別研究員

中国内モンゴル出身。明治大学、カリフォルニア大学デービス校、京都大学などでの研究員を経て、現在国立環境研究所生物多様性領域特別研究員。研究分野は地域計画学/農村計画学で、持続可能な里山里海創り、移住と観光など外部からの長短期人口移動の地域への影響、気候変動の社会インパクトなどの研究を展開。

新しいSATOYAMAづくりに関して参加大学からの取り組み発表

13:10-13:50

講演者

三宅 里奈

国連大学サステイナビリティ高等研究所 プログラム・コーディネーター

2023年9月より現職。SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ事務局として同イニシアティブを推進。それ以前は、環境省において自然環境保全行政や水質管理行政等に携わる。直近では、生物多様性条約名古屋議定書の実施を担当。国土交通省観光庁において自然資源の保全活用を通じた観光促進にも従事。

加藤 千尋

千葉大学大学院 園芸学研究科

千葉県生まれ、豊かな自然環境や博物館施設に親しんで育つ。高校では生物研究部に所属し、校内ビオトープの管理を通じて生物の面白さと豊かな生態系を保つことの重要性について学ぶ。現在はDNAメタバーコーディング法を用いて都市鳥類の食性を解析し、都市の生態系をテーマに研究活動に取り組む。

銭谷 卓人

千葉大学大学院 園芸学研究科

幼少期に生き物と触れ合う機会が多く、生態系を支える緑地に興味を持つ。大学では、動植物や土壌の生物学的・生態学的研究を基礎に、緑地の構造やその変化について学び、自然再生や生態系管理などの緑地環境資源のマネジメント技術を研究する。現在は、風倒被害を受けた森林での常緑樹林再生をテーマに研究活動に取り組む。

呂 瑋達

東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員

2024年に東京大学博士課程（医学）を修了し、現職。老年学を専門とし、フレイル予防やウェルビーイングの向上に取り組む。栄養・身体活動・社会参加の多面的なが高齢者の健康に与える影響を探究。日本・中国・英国のデータ統合による国際共同研究を推進し、2024年より世界11の大学が連携するIARU-ALH ECR のChairを務める。

加藤 春奈

東北大学大学院 工学研究科 / 日本学術振興会 特別研究員

宮城県仙台市出身。中学1年生時に東日本大震災を経験し、都市防災に興味を持つ。現在は自然災害が起きても人命や財産が守られ, 長く人が暮らしていける都市の実現に向け、東日本大震災の被災都市を対象に研究を行う。

中野 健太郎

早稲田大学環境総合研究センター 主任研究員

2004年から豊島廃棄物不法投棄問題における早稲田大学の研究支援・地方創生に関わる。2006年から2015年まで本庄キャンパスにおける里地里山保全に関わる。2013年から域学連携事業の学生指導。2022年、博士（学術）取得。現職は主任研究員。持続可能な地上資源活用と環境保全の社会実装に関する研究を発表する。

14:00-15:00

第三部 SATOYAMAの未来に関する意見交換・パネルディスカッション

モデレーター

舘野 隆之輔

京都大学フィールド科学教育研究センター センター長・教授

京都大学農学部卒業後、同大学院農学研究科で博士（農学）学位取得。総合地球環境学研究所研究員、鹿児島大学農学部助教授・准教授、京都大学フィールド科学教育研究センター准教授を経て現職。専門は森林生態学、生態系生態学。主要な研究テーマは、森林の炭素・窒素循環、土壌微生物の群集構造や機能に関する研究など。

パネリスト

河野 円樹

綾町役場ユネスコエコパーク推進室 係長

宮崎県生まれ。環境学博士。（一財）自然環境研究センター研究員、環境省自然環境局生物多様性センター技術専門員を経て、現在は綾町役場ユネスコエコパーク推進室に勤務。専門は植物生態学。故郷の自然を守るため、九州南部を拠点として植生調査や植物の分布調査を行っている。

倉内 洋翔

京都大学 農学部地域環境工学科 / 森里海と文化研究会 代表

2023年10月より「自然とつながる価値を広げていき、分野を問わず様々な学生が集まる場」を目指し、森里海と文化研究会を設立。学生に「自然とのつながり」を日常の一部に取り入れてもらうことを目指し、多方面から取り組みを進めている。個人としての研究テーマは林業政策と農村計画。

齋藤 瑠斗

早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科

群馬県出身、24歳、研究テーマ「Z世代の環境配慮行動を促す要因」

三宅 里奈

国連大学サステイナビリティ高等研究所 プログラム・コーディネーター

加藤 千尋

千葉大学大学院 園芸学研究科

呂 瑋達

東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員

加藤 春奈

東北大学大学院 工学研究科 / 日本学術振興会 特別研究員

会場内のご案内

展示ブース

2階受付近く および **3階会場入り口周辺** にて、連携大学や関係先の取り組みを紹介する展示を行っています。
主に生物多様性やSATOYAMA に関する内容ですので、ぜひお立ち寄りください。

ウォーターサーバー

3階の **イオン環境財団展示ブース** に **給水スポット** を設置しています。マイボトルをお持ちの方は、ぜひご利用ください。
環境にやさしい取り組みにご協力をお願いいたします。

イオン環境財団とは

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、１９９０年に設立されました。以来多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の４つの事業を中心に活動を実施しています。現在は、持続可能な地域の実現を目的に新たな里山づくりにも取り組んでいます。

ホームページ